

一般財団法人 有本積善社 第 39 回番組審議会議事概要

- 1 開催年月日：令和 2 年 10 月 22 日（木）16：00～17：40
- 2 開催場所：京都府舞鶴市字円満寺 158-6 西市民プラザ 2 階 市民活動団体活動室
- 3 委員の出席：
委員総数： 7 名
出席委員数： 4 名
出席委員の氏名： 水嶋純作、尾関善之、今安博和、山内茂樹
欠席委員の氏名： 松井恭子、山下美晴、楠崇智
放送事業者側出席者名： ジェネラルマネージャー 時岡浩二
放送局長 中西 進
制作チーフ 上田秀篤
制作スタッフ 奥野あかり

4 議題

(1) 報告事項

- ① 先月の審議会でも報告した環境省の補助金事業「地球温暖化防止意識啓発運動Cool Choice」の10月のテーマとして「ウォームビズ」関連の番組、生読みCMを放送している。
- ② 11/13（金）～12/11（金）までの4週間、ポリテクカレッジ京都（京都職業能力開発短期大学校）からインターンシップ生を受け入れ、ラジオ局業務に係る実習を行う予定。
- ③ FMまいづるが市内の小学校へ出かけ、教室に臨時スタジオを設置し児童達の自由な発想による教室発の収録ラジオ番組「学校出前ラジオ」を企画した。第1弾として市立三笠小学校5年生28人の制作による「三笠コロナ防止隊（15分番組）」を10/13（火）から始め、10/30（金）まで12回放送する予定。

(2) 番組審議

2020年7月3日（金）20:00～20:15 放送の「寝ても眠れない日本人へ」
第118回テーマ「パーム油火力発電撤退について」
番組ホスト：T.K.氏
アシスタント：F.K.

番組内容：スポンサーは番組ホストのT.K.氏が経営する寝具用品等メーカー。毎回、番組ホスト自身の生活信条にもとづいた生活術の紹介や時事問題に対する自身のコメントを放送するラジオコラム番組。今回の内容は、全国紙地域版/地元新聞でもたびたび報道されていた舞鶴市喜多地区におけるパーム油火力発電所建設計画が事業実施主体の撤退により計画が白紙になったことを受けて、地元自治会で反対運動をしてきたゲストを招いて（オンライン）、これまでの経緯やホスト自身も反対のコメントを紹介（審議委員の意見には次週7/10放送の同一テーマの番組に対するものを含む）。

5 議事の概要

- ① 上記（1）項の報告内容を審議委員に説明。
- ② 上記（2）項の審議番組に対する意見を審議委員各位から聴取。

6 審議内容

【審議番組に対する委員の主な意見】

- ① 次週の7/10の同一テーマの番組も聴いたが、コミュニティ局がこういう番組の取扱方向性を考える良い機会である。
- ② 自治会の代表として反対運動をしてきたゲストの出演は一定の影響はあると思う。1リスナーとして聴いていると、そんなことがあったのかということがわかり、その事実があったことをラジオで話すのはよいと思う。番組ホストとゲストの3人の行政に対する気持ちは伝わってきた。この放送自体については否定や反対はしない。
- ③ 扱いが難しい内容である。いくつか質問・意見したい。
 - このラジオコラムに対する規制や出演者の選考基準はどうなっているのか？
 - スポンサーが出演者となっているが、妥当か？
 - 団体や個人への非難・中傷をどこまで考えるのか？
 - 個人がどういう意見を持ってもよいが、一方的な考えを放送で具現化するのはどうか？
 - コミュニティ局が政治にどこまで関われるか、許されるのか？
 - 局の番組編集基準によると「報道番組は、・・・公正な立場を守り、・・・多角的な論点を明示する」となっているが、今回はこの点が問題と考える。
- ④ リスナーにこのような意見があるということを知ってもらうのはいいことではあるが、コミュニティ局は明るく・楽しく・生活に役に立つ番組というイメージがある。次週7/10の番組内容を聴くと事業推進側を非難・中傷しているように聞こえ、このイメージとは乖離があり、コミュニティ局の放送にそぐわないのではないか。
- ⑤ 事業主体が撤退したとの情報を受けて、7/3の放送冒頭でアシスタントが番組ホストに対して「朗報が入ってまいりました」と反対派に同調するような言葉をかけている。番組の最後で、リスナーに対し番組への感想を求めていることを考えるとアシスタントは局側の人間であるから中立的な立場の発言が望ましい。
- ⑥ 7/3の放送は経緯の説明などでそれ程問題とは思わないが、7/10の放送の最後で反対派のゲストが、首長のリコール運動をすと言った部分は政治活動になっているようで違和感がある（アシスタントがエンディングでこの番組への意見を求めている）。
- ⑦ 今回は局のスタンスが反対派に加担しているように聞こえる。リスナーが番組を聴いてどう感じるかを念頭においたほうがよい。非難・批判とかは避けた方がよい。聴いた感じが悪い。素直に受け入れられる内容がよい。
- ⑧ コミュニティ局なのでスポンサーのことは考えた方がよい。
- ⑨ あまりかけ離れた意見はコミュニティ局にそぐわないのではないか。
- ⑩ 新聞は取りたくなければ取らなくてよいが放送は聞こえてくる。多くの人に支持されるコミュニティ局にふさわしい番組がよい。
- ⑪ リスナーとしては、こういうことも放送してくれることで分かることもある。
- ⑫ 中傷はよくないが、批判ぐらいはよいのではないか。
- ⑬ 議員の名前や首長の名前が出ているのはよい。政策の観点できちんと議論する番組があるとよい。
- ⑭ これからFMまいづるが、このような問題に対してどう対応していくかというところが問題。リスナーが増える番組にしていくのが大事。そのためにはバランスよく、聴

いて良かったと言われることの積み重ねが大事。コミュニティ局として公平性を捉え、透明性のある放送を進めてほしい。

【局回答・見解】

[FM まいづる番組編成基準を配布して説明した。]

番組編成はFM まいづる編成基準によっていて、

- 公序良俗に反する放送は行わない。
- 反社会的勢力は排除しなければいけない。
- スポンサーが出演者になることに制約は設けていない（表現の自由）。

また、法律的には番組編成基準としてコミュニティ局と民放、NHK 間で差はない。コミュニティ局だから内容は地域内限定・非政治的でなければいけないということではない。

この番組は報道番組ではなく市民制作番組であり、番組ホストのエッセー、コラムである。FM まいづるは報道機関ではないので独自取材はしていない。我々が独自で取材し報道するなら別の形態となる。

必ずしも1つの番組内で賛成・反対の公平・公正性を完結させなくてもよく、局全体の番組編成の中で表現すればよい。別の反論番組の提案があれば排除するものではない。現在は反論の番組の放送希望、出演希望がない。

商業ベースで運営しているので、金額に応じて番組枠を提供している。内容に問題があれば局の判断で編集したり、放送を中止する。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

当審議会が出た意見を局内会議で議論し、局としては当該番組内だけでなく局全体の編成を通して様々な意見を放送する用意がある基本方針を確認した。また、放送にふさわしい表現となるよう番組ホストおよびアシスタントに伝えることとした（令和2年11月26日）。

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 令和2年12月13日 この審議会議事概要を演奏所事務所に備置き、閲覧できるようにした。
- ② 令和2年12月13日 この審議会議事概要をホームページに掲載した。

9 その他の参考事項

特になし

以上